

日廻り

～動物医療、教育、地域交流が一体となった複合施設～



<設計趣旨>

愛媛県では現在、犬や猫の殺処分が多いという課題を抱えている。その現状に向き合い、犬や猫をはじめとする動物の命を一つでも多く救うことを目的として、動物病院を中心とした施設を計画した。獣医師を育成する教育機関が少ないという問題にも着目し、動物病院に大学を併設することで、学生が実際の医療現場に触れ、獣医師の仕事を見て学び、体験できる環境を整えた。医療と教育が一体となることで、将来的に多くの命を救う人材の育成を目指している。本建築は「地域・自然・生物の共生」をコンセプトとし、建築内部には自然をモチーフとした模様やバイオフィリックデザインを取り入れた。人間が本能的に求める「自然とのつながり」を人工的な空間の中で感じられるようにすることで、心身の健康や幸福感を高め、息の詰まりやすい病院という施設を、安心して過ごせる空間へと変えることを意図している。地下から最上階まで伸びる吹き抜けや、自然光が差し込む屋根を設けることで、学生・動物・獣医師のすべてが、のびのびと過ごせる環境となるよう工夫した。さらに、図書館と犬カフェを組み合わせた建物やドッグランなど、地域住民も利用できる施設を併設することで、人と動物、そして地域とのつながりを深める場となることを目指している。この建築が、多くの命がこの世界で生き続けるための拠点となり、人間と動物がともに安心して暮らせる社会への先駆けとなることを願っている。

<バイオフィリックデザイン>

バイオフィリックデザインとは人間が本能的にもっている「自然とつながりたい」という欲求(バイオフィリア)を建築や空間デザインに取り入れる考え方のこと。例えば室内の緑化や中庭、自然素材を使う、波や葉、格子などの有機的な形状を取り入れている単に植物を置くことではなく、光、風、素材、形態、空間構造を通してし全を感じる体験を作ることを目的としている

<建設予定地>



<建築概要>

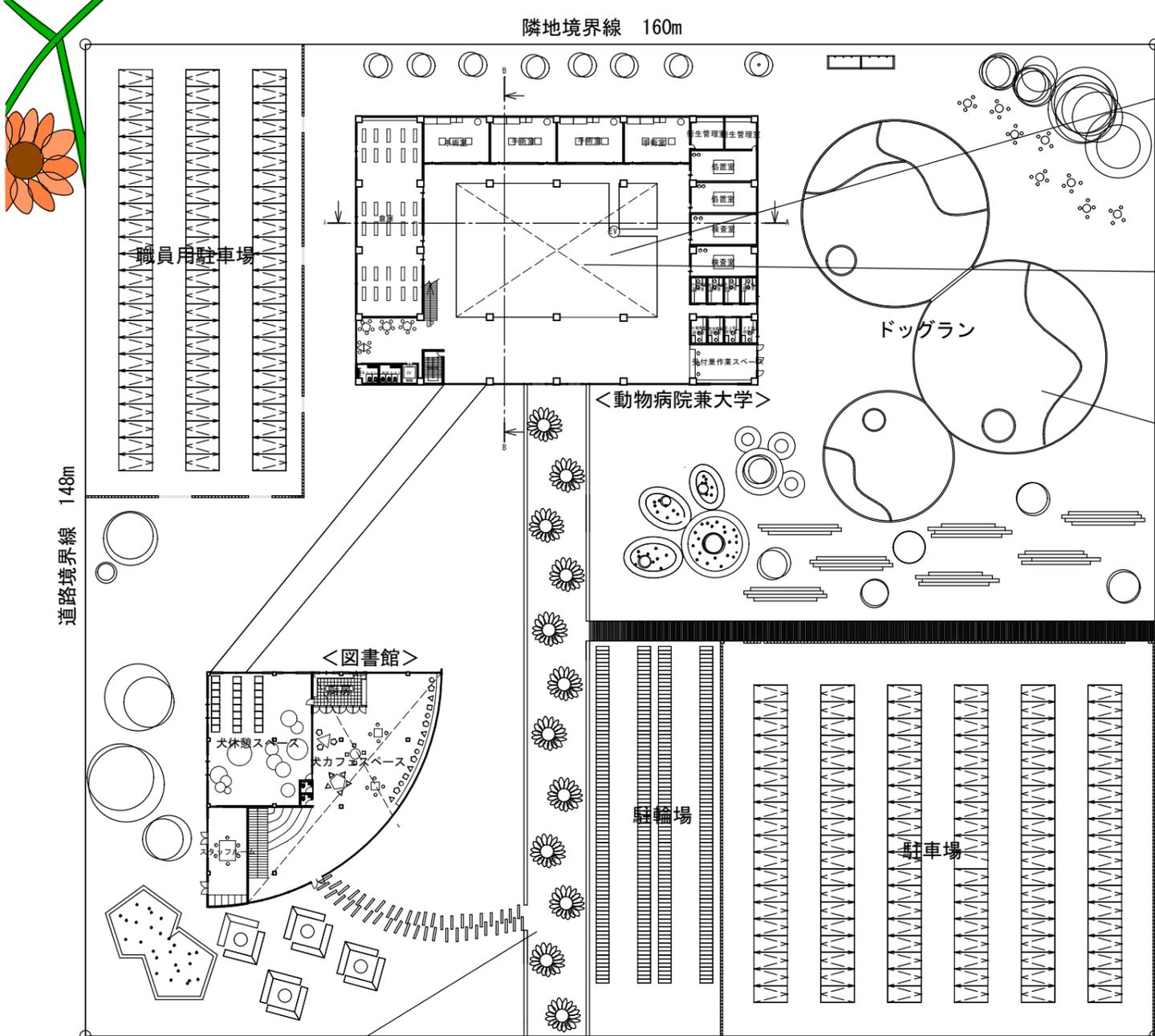
敷地面積 23680㎡

<動物病院兼大学>

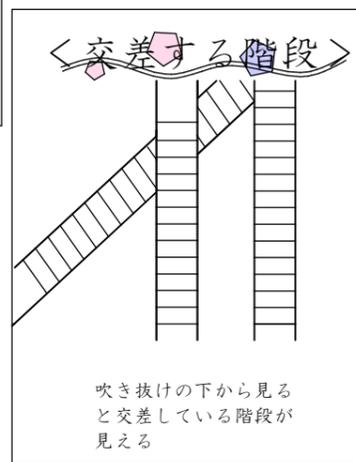
建築面積 3500㎡
延べ面積 13369㎡
建築高さ 24m
構造 RC造一部S造

<図書館>

建築面積 3848㎡
延べ面積 3372㎡
建築高さ 8.1m
構造 S造



最上階まで続く大きな吹き抜けによって動物も人もびのびと過ごし息の詰まりやすい病院でも空気が抜けるような構造に

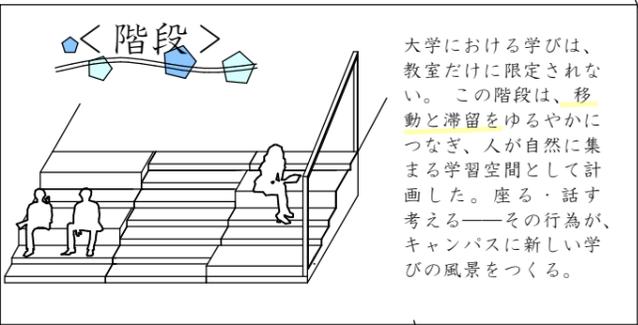
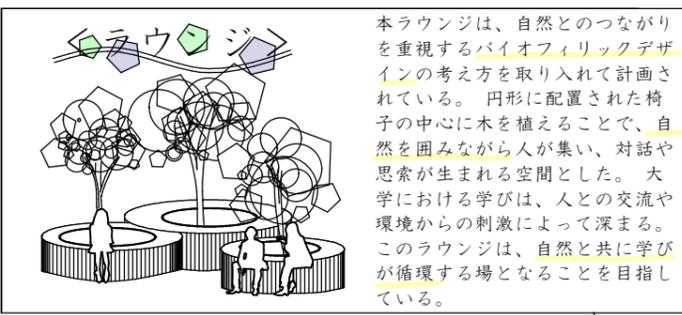
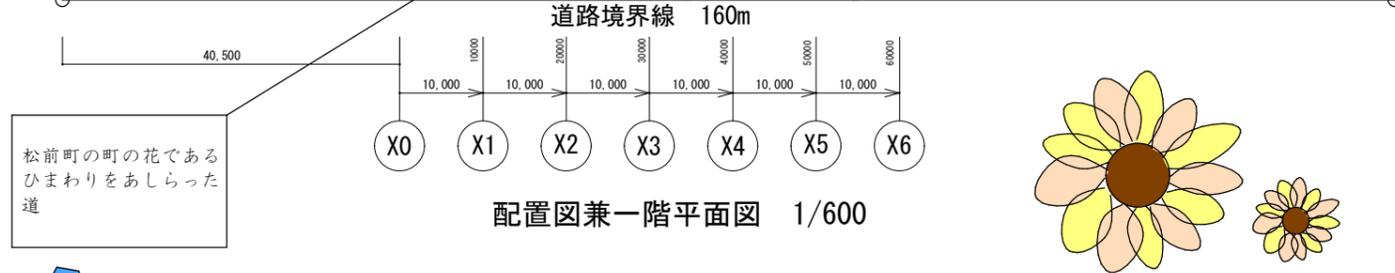


1階は動物医療施設

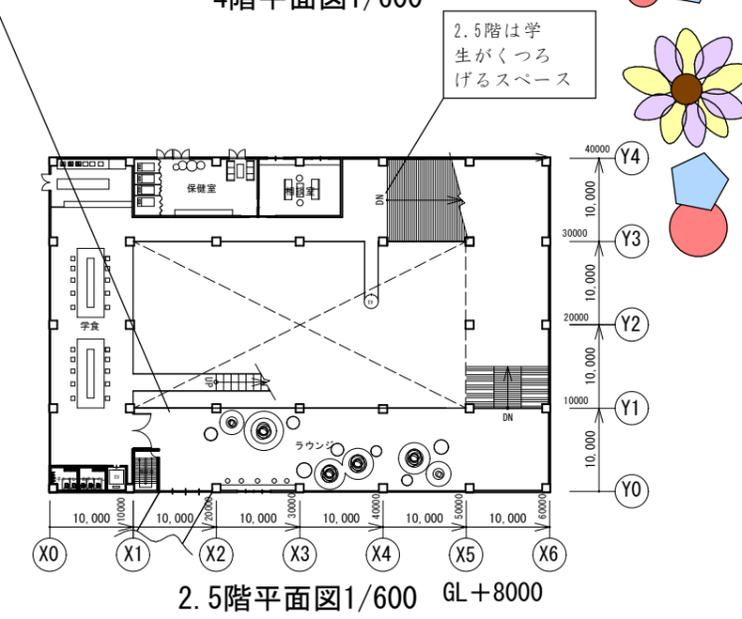
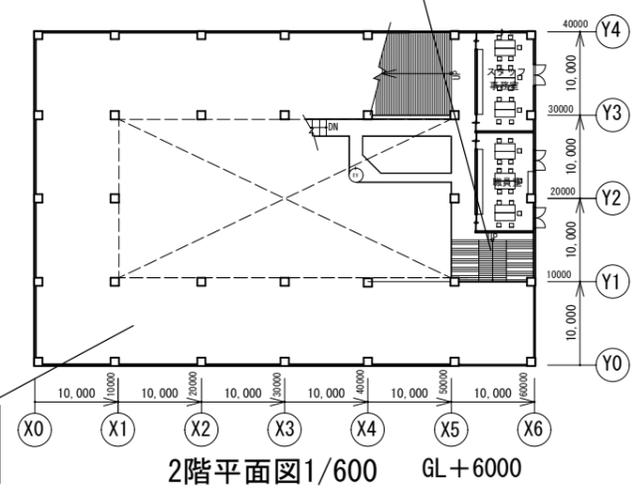
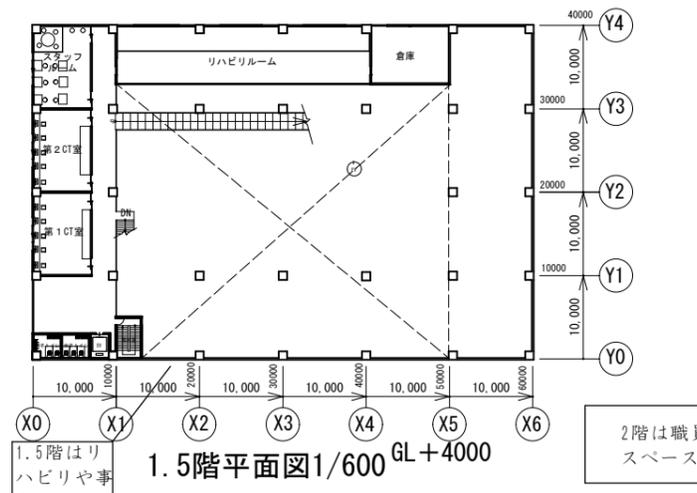
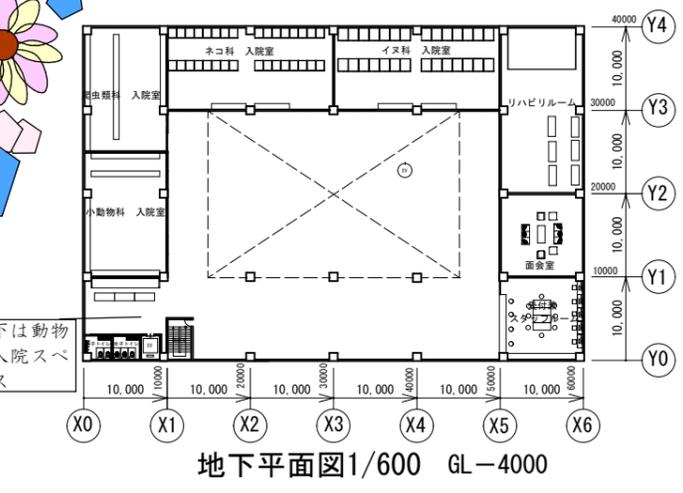
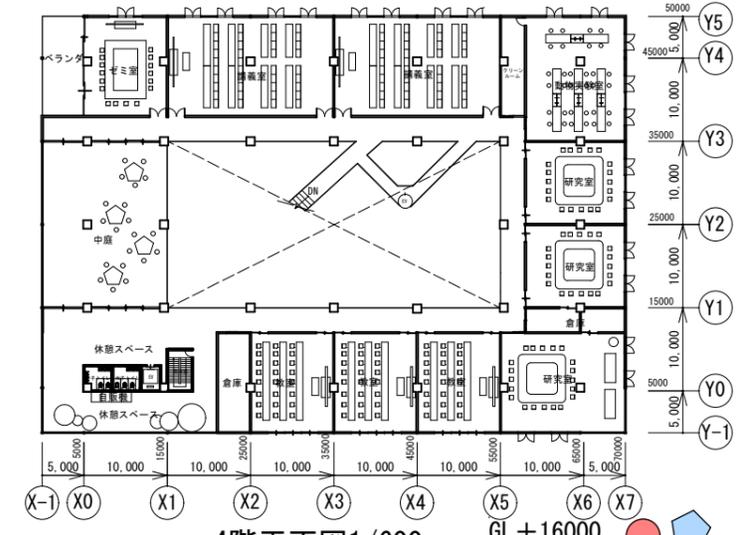
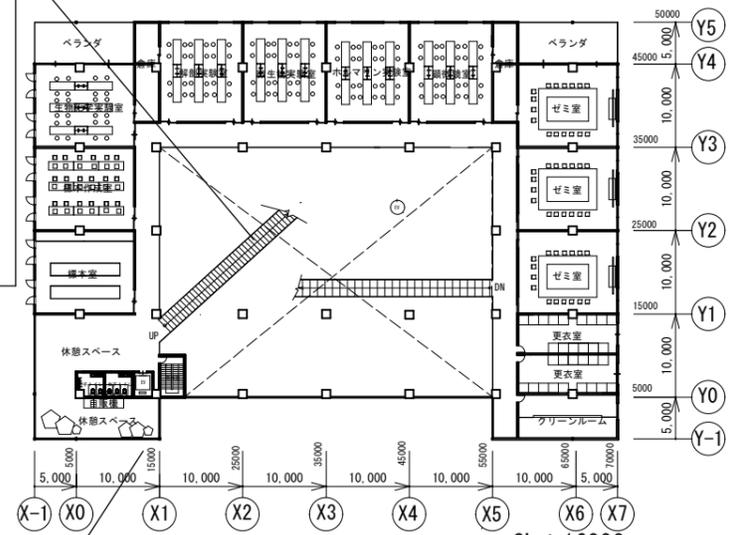
ドッグランは、動物と共生するまちづくりの一環として、地域交流を促す役割を担っている犬を連れて訪れる人々が自然に会話を交わし、地域の新たなコミュニティ形成につながる場となることを意図した。

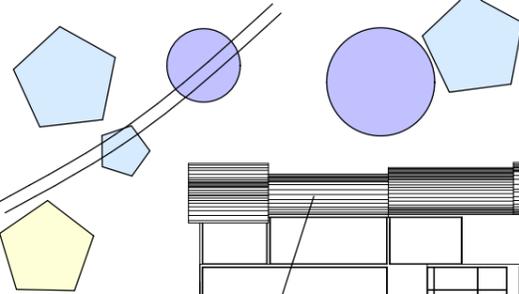


隣地境界線 148m

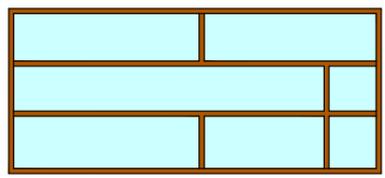


動物病院兼大学

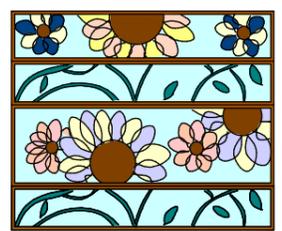




＜窓のデザイン＞

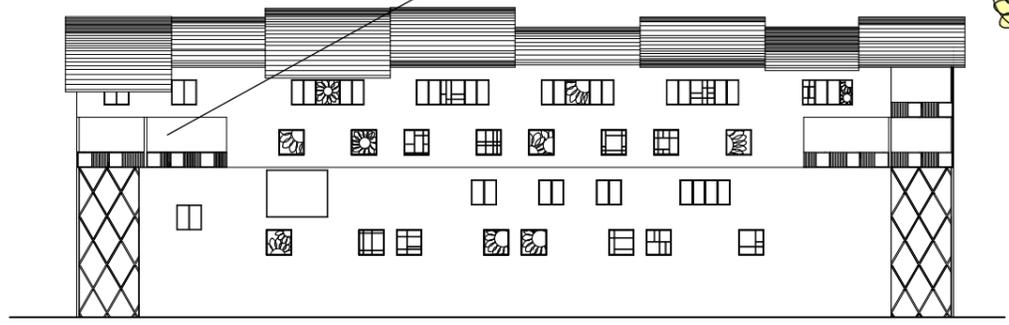


木の格子を通して自然を切り取ることで、人と自然の距離をつなぐ木材の温かみや木の格子によって外観に特徴を持たせるようなデザインにした。



太陽に向かって咲く向日葵のステンドグラスを設けることで自然の生命力や明るさ、前向きな印象を与える。色ガラスを通過する光は時間帯によって表情を変え室内に自然光の変化や季節感を感じさせる。

学生が使うスペースには多くのベランダを設け室内での学習や実習の合間に外の光や空気を感じられる場を設けることによって気持ちを切り替えられるようにした

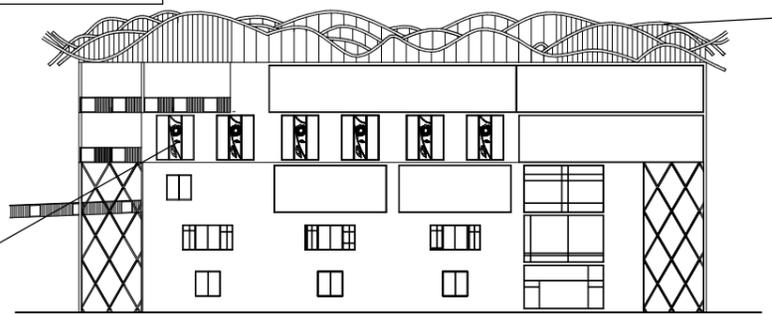


北立面図1/400



南立面図1/400

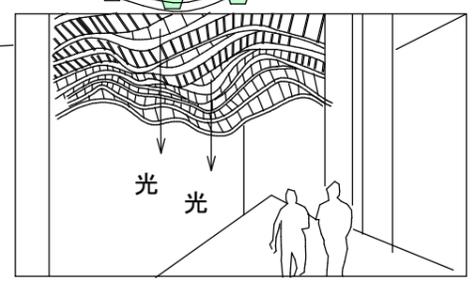
屋根の正面は一つ一つのパーツの形が違うので視覚的にも楽しめる屋根に



東立面図1/400

この部分のステンドグラスは春夏秋冬を表した色遣いにして季節感を感じれるようにしている。

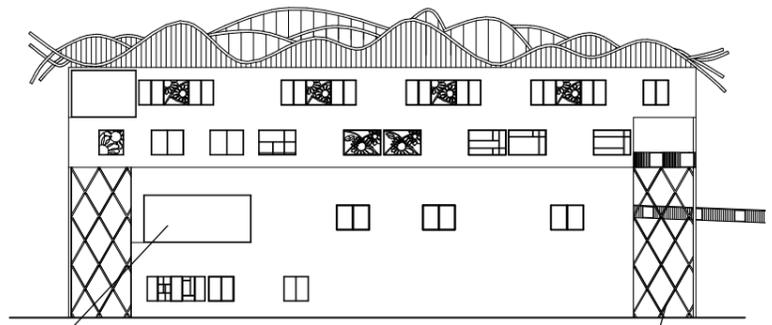
＜屋根＞



波を組み合わせた屋根を設けることによって自然光を取り入れることができる。また、高さの異なる屋根によって直射光を遮り、反射光として室内に光を取り込むことで柔らかに光環境にした。夜間には室内からの光が屋根を通して漏れる。これによって幻想的な雰囲気を感じさせる構造にした。

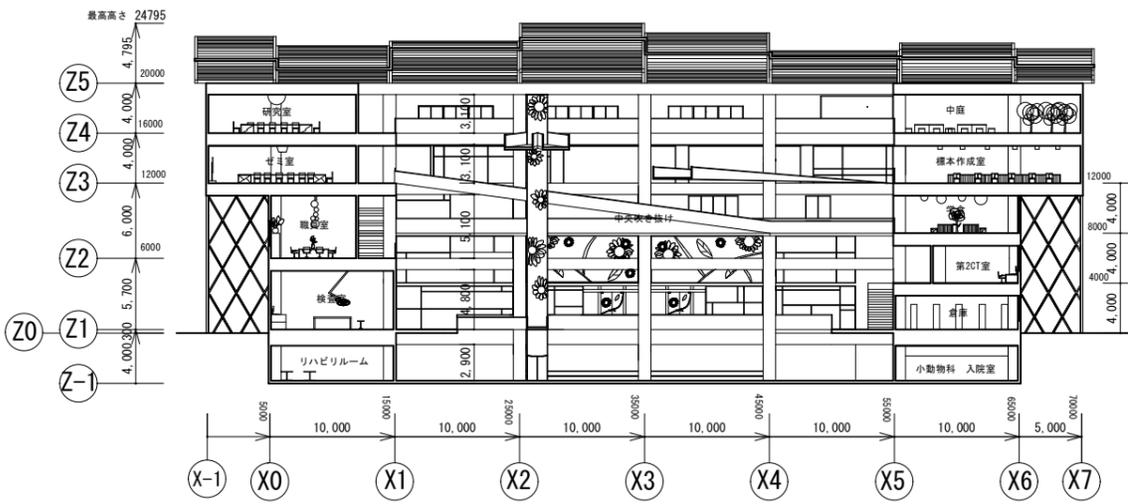


大きなめ殺し窓を設けることによって外部の緑が常に感じられるようにして、室内に広がり開放感を。利用者や動物にとっても安心できるようにした。

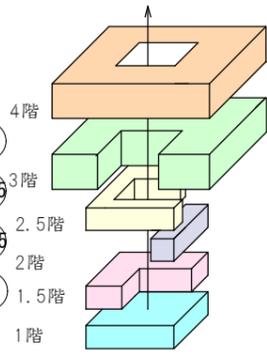


西立面図1/400

木のトラスを用いることで自然素材による温かみやこの建築のアクセントとしての役割を担っている。また、この建物の色合いにも優しさを与えるようにした。

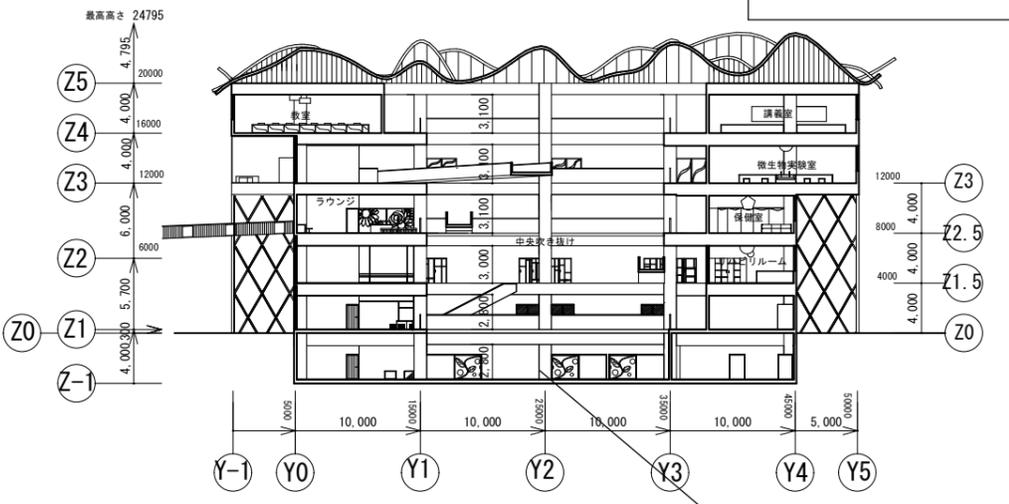


A-A断面図1/400



＜ダイアグラム＞

最上階まで伸びる吹き抜けによって開放感を与える。また、中間階を設けることによって建物に動きを持たせることができる。地下から1.5階までを動物病院メインの施設、2から4階までを学生が使う空間にすることで空間にメリハリをつけれるようにしている。



B-B断面図1/400

＜昼＞



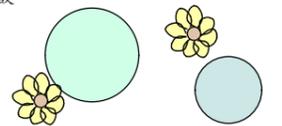
- ①昼間は窓やステンドグラス、屋根から入る光によって内部に光をもたらす
- ②暖かい光によって安心感や温かみをプラスしている
- ③昼間は人が多く行きかうので温かみのある雰囲気に

＜夜＞



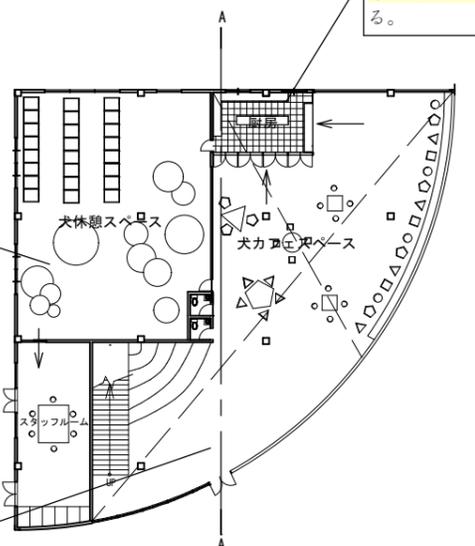
- ①夜間は内部からの光が外に漏れる仕組み
- ②ステンドグラスの光によってさまざまな色の光が外に漏れる
- ③建築内部の活動や人の気配を外部に伝え、夜でも安心感のある施設

室内のドアも木を多く使うようにしたり自然を意識したデザインにしている。



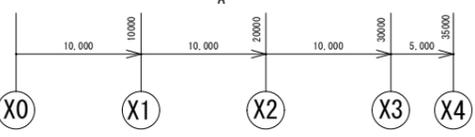
<図書館>

横の窓からも正面のカウンターからも商品を受け取れる。動線が渋滞しないようにしている。

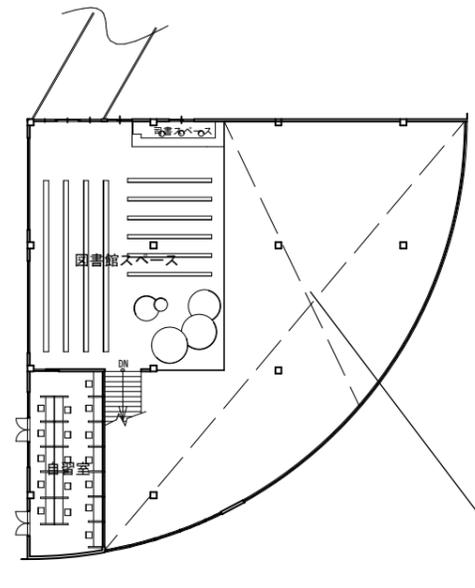


犬がくつろげるように個々の小屋を作ったり犬用ソファのようなものを置いた。

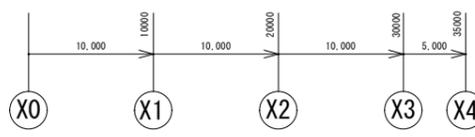
スタッフ動線と利用者の動線をはっきりさせることで一体感のある空間に



1階平面図 1/400

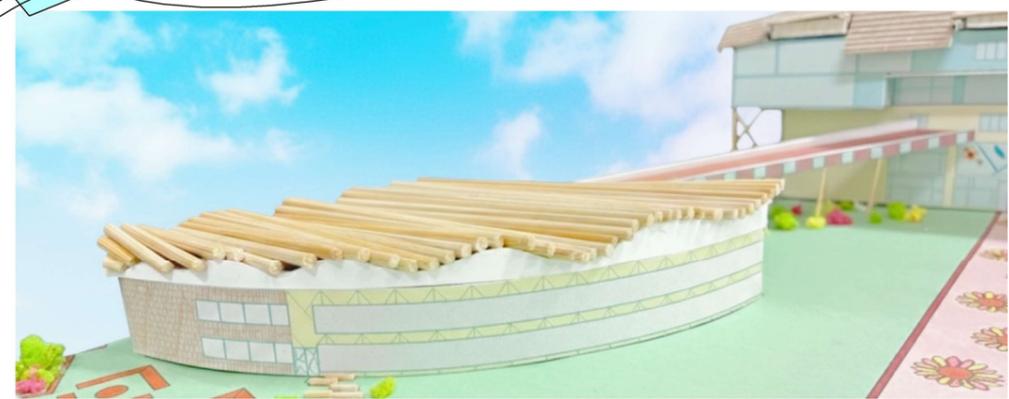


大きな吹き抜けによって開放感を与え、図書スペースから下の犬カフェが見えるので犬を見て癒されながら本を読める。

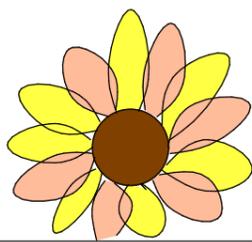


2階平面図 1/400

<図書館模型>



この図書館は地域のみなさんにも利用できるところを大切にしたい。色とりどりの花や羽目殺し窓、犬のイラストなど、犬が大好きな要素を取り入れた。この1/4の円の形は本が開いているように意識している。



それぞれ外壁の柄を切り替えることで目を引くようにした。

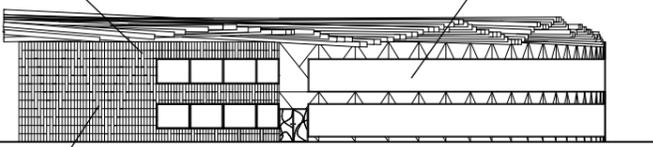
大きな羽目殺し窓によって外の景色を楽しみながらくつろげるようにしている。

木をデザインを考えて組み合わせて特徴的な外壁に。

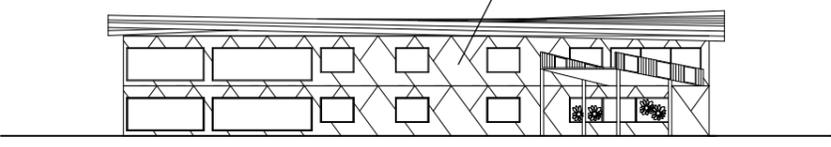
自習室から下の階の景色を見ることができる。

<椅子>

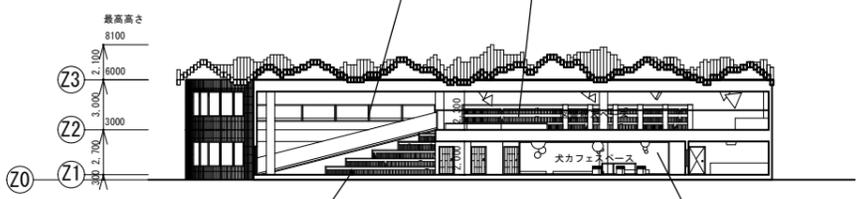
本をゆっくりと読むでもいいし家族や友人とくつろぎながら読む読書もいい。そんな椅子を作りました。



南立面図 1/300



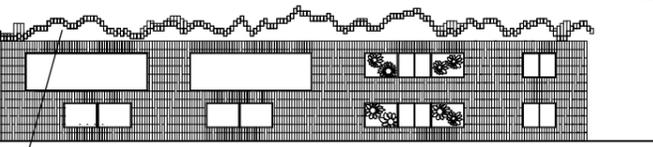
北立面図 1/300



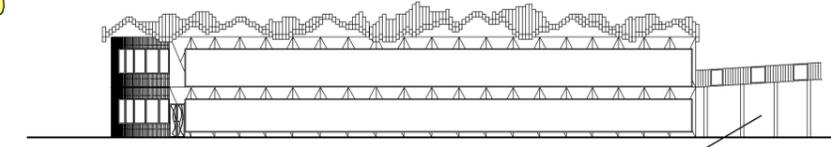
A-A断面図 1/300

犬を鏡越しにも見ることができるので見て楽しめる。

木の板をはり、それぞれ大きさを変えて貼っているので外壁に動きを出している。



西立面図 1/300



東立面図 1/300

<座れる本棚>

座れる階段を設けることによって本を感じながらくつろぐことができる。本棚を単なる収納の一部ではなく建築の一部として設計した。読む、休む、考えるを一つの場所で完結させる居心地の良い空間をつくれるように工夫した。

<屋根>

この屋根は正面から見ると奥の屋根が上がっていたり下がっていたりする。屋根に動きを持たせ視覚的に楽しめる屋根にした。あえて高低差をつけることによって丘や風のように自然の地形を感じさせるようなものを建築に取り込んだ。



<渡り廊下>

この渡り廊下は本館の2.5階から図書館の2階に向けてかけられていて、雨の日もこの廊下を通っていけるので授業が終わった後などに自習室で勉強したい時などに直接図書館に行くことができる。

